

## **9月26日、「北海道支部との懇話会」を開催**

～本部から石原理事長他4名、北海道支部から西村支部長他14名が出席して懇談～

当組合は、これまで本部と支部の交流・情報交換の場として、①毎年開催される支部総会（東京、東海、大阪、九州）に理事長が出席し、地元の支部組合員との懇談を通し、本支部間の交流を深めるとともに、②毎年1月、新年賀詞交歓会の開催日に合わせて、『全国支部長・委員長会』を開催。理事長、9支部長、3委員長が出席して、報告・連絡案件の他各種議案に関する検討を行うなど、本支部間の交流事業を実施してきている。

平成22年度より、上記2事業に加え、新たに4支部以外の支部組合員とも交流や情報交換を図るために、『本支部懇話会』を随時実施している。

これまでの開催経過は以下の通り。

第1回／北海道支部との懇話会	22年	7月15日	札幌
第2回／新潟支部との懇話会	22年	11月17日	新潟
第3回／神姫支部との懇話会	23年	4月8日	姫路
第4回／北海道支部との懇談	23年	8月2日	札幌
第5回／北海道支部との懇談	24年	8月28日	札幌
第6回／北海道支部との懇談	25年	9月19日	札幌
第7回／北海道支部との懇談	26年	9月26日	札幌

同懇話会の第7回目として、去る9月26日（金）、北海道支部組合員との情報交換会を札幌市で開催した。

本部からは、石原理事長、酒匂副理事長・市場委員長、大住理事・総務委員長、事務局が出席、北海道支部からは、西村支部長（玉造(株)社長）、阿部・阿部鋼材(株)社長、上遠野・(株)産鋼スチール社長、佐藤・(株)マルキンサトー社長ほか14名が出席し、情報交換が行われた。報道関係者は5名が同席した。

会議は、(株)産鋼スチール・上遠野社長の司会により、議事が進行された。

最初に西村支部長より、「本支部懇話会は、今年で7回目を数えるが、うち北海道開催は5回目となる。本会は回を重ねるごとに充実してきており、これは石原理事長をはじめ本部役員の熱意の賜物であると感謝申し上げる次第である。北海道経済は公共投資が大幅に増加し、建設業、製造業共に需要は改善している。鉄骨業界は来年以降まで仕事があり、数量・価格ともに明るさが見えてきた。北海道は、札幌市中心部再開発、北海道新幹線関連、複合商業施設、農業施設などの物件がある。個社ごとに陥没価格の是

正にも取り組んでいるが、諸資材が値上がり分まで転嫁できていない。難しい状況ではあるが、今後も量より質を求め、品質と納期を厳守し、取引の適正化を目指したい。本日は、理事長はじめ本部役員にご来道いただいております、この機会に本支部間の相互交流と情報共有を図り、今後の経営の糧にしたいと思う。」との挨拶が行われた。

引続き、石原理事長より、「西村支部長、上遠野社長をはじめ各社の皆様のご協力のもとで、本会を開催できることに役員一同心より感謝申し上げたい。

我々シヤリング業界は、リーマンショック後の世界同時不況で鉄骨需要が過去最低の年間400万トン割れまで落ち込んだ。その際、シャーやファブなど建設に携わるあらゆる階層で、徹底した合理化・能力縮小を断行した。人員やコストを極限まで圧縮しながら、“厳寒期”を乗り切ったが、それにより、足元の建設内耳の急回復は、さまざまな工程で「ヒズミ」が生じている。建設業全般で指摘される人手不足の問題は、今や社会問題化の様相を呈している。設計・施工、図面作成、現場管理から資材輸送、中間部品製作、部材加工等々、において本来の「餅屋は餅屋」の構造が薄れ、その影響が下工程や下請けにしわ寄せされるケースが現出している。シャーの立場から見ると、数量増と並行して、穴明けや開先といった2次加工要請が著増している。また、一次加工プロセスにおいては客先からの初期情報とその後の確定情報の内容が著しく異なるケースも少なくない。このことが、シャーの歩留悪化や生産性低下の要因になっている。また顧客サービスと納期優先することにより、残業・休日出勤、外注委託につながり、コスト負担が嵩んでいる。従い、シャーは繁忙な割に生産性が上がらず、“労多くして益なし”の厳しい状況が続く。建材系シャーの収益性改善に向けた商慣習の是正が急務である。今後の組合活動は第2ステージに入る。すなわち、実践的なケースを想定し、個々の事情・状況に応じて、さらに一歩踏み込んだ具体的な議論、取り決めが必要である。例えば、歩留について個別客先との間でどう取り決めるか。各工程で生じる手間や時間をどのようにコストに置き換えるか。2次加工の対価をいかなる算式で打ち出すのか。事例を挙げればきりが無いが、いずれにしても顧客の立場に立ちながら、我々の取組みがお客様にとっても成果につながるような方策を検討していく所存である。皆様のご理解とご協力を引き続きお願いしたい。」との挨拶が行われた。

続いて、酒匂副理事長（市場委員長）からは、建機・産機など製造業分野の足元及び先行き需要見通しについて説明があった。また、大住理事総務委員長からは、今年6月、全国鉄構工業協会に対し、「建材取引の適正化に向けた取り組みについて（お願い）」の文書を提出したことについて報告があった。内容は、①書面を前提とした契約のルール化と法令の遵守、②切板価格の算定方式の明確化から構成され、ファブと共同で対応していく必要性を呼び掛けたことが紹介された。

次に、北海道支部からは、玉造(株)西村卓也常務取締役並びに(株)マルキンサトー佐藤一義取締役より、北海道地区の市場概況について説明が行われた。

なお、懇話会に先立ち、本部役員及び報道関係者は、上遠野久夫・(株)産鋼スチール社長様、同社福田課長様のお出迎えを頂き、北海道・北広島市に本社を置く中山機械(株)(新妻敬太郎社長。三菱電機系列の企業。各種クレーン、荷役台車、プレス装置、コイル加工設備などの製造を手掛け、高い技術力には定評がある)を訪問。最初に新妻社長の概要説明を受けた後、懇切丁寧な工場内での説明のもと、多岐にわたる構造物が効率よく製造される現場をつぶさに見学させていただいた。

『北海道支部との懇話会』の開催概要は下記の通り。

- ・ 日 時 平成26年9月26日(金) 15時20分～17時20分
- ・ 場 所 ジャスマック・プラザ・ホテル(札幌市)

・ 出席者

【本 部】

石原理事長、酒匂副理事長・市場委員長、大住理事・総務委員長、  
柘野(事務局)

【北海道支部】

西村支部長

阿部社長、阿部専務、松岡取締役(阿部鋼材(株))、

上遠野社長、関部長、福田課長、三塚係長(産鋼スチール)、

西村常務、太田部長(玉造(株))、

佐藤社長、佐藤常務、佐藤取締役、日置部長(株)マルキンサトー)

【報道】

鉄鋼新聞社(太田、斉藤)

産業新聞社(岡、相内)

鉄鋼経済新聞(中藪)

以 上